

細胞バンク

細胞組織バンクの構築

再生医療のみならず難病・希少性疾患への創薬等に利活用するためのバンクを産業界と連携しながら構築

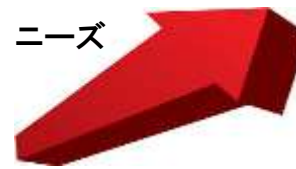
細胞リソース

間葉系細胞 骨髄由来
脂肪由来
臍帯血・臍帯由来

ES細胞
iPS細胞由来分化細胞など

再生医療産業化

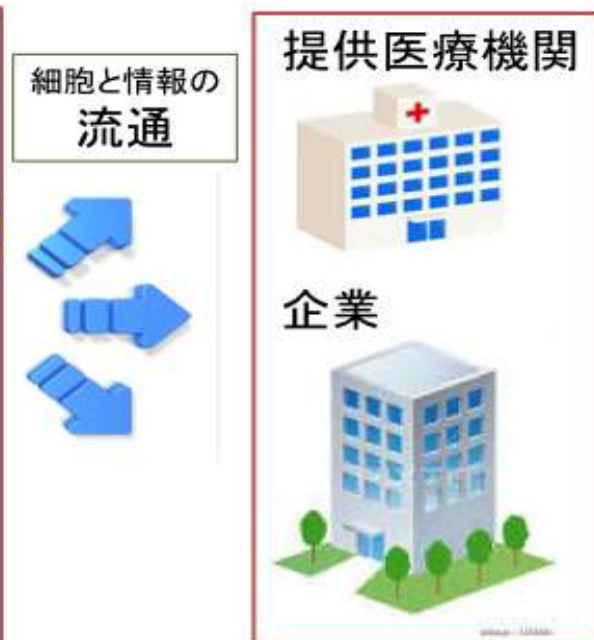
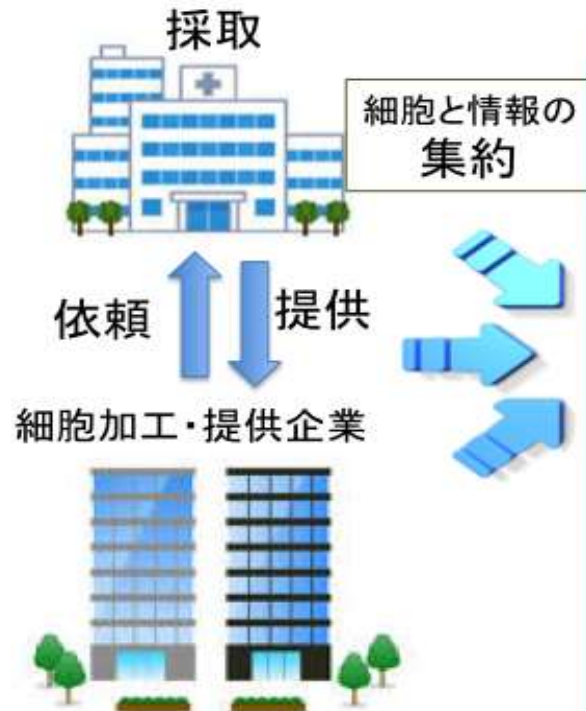
ニーズ



流通しない



輸入に頼っている



再生医療資源の安定供給と流通

人材育成

再生医療トレーニングセンター



実践と座学により

プロフェッショナル人材育成

「ひと」と「企業」と「医療」を育てる



先端医療国際センター構想(案)

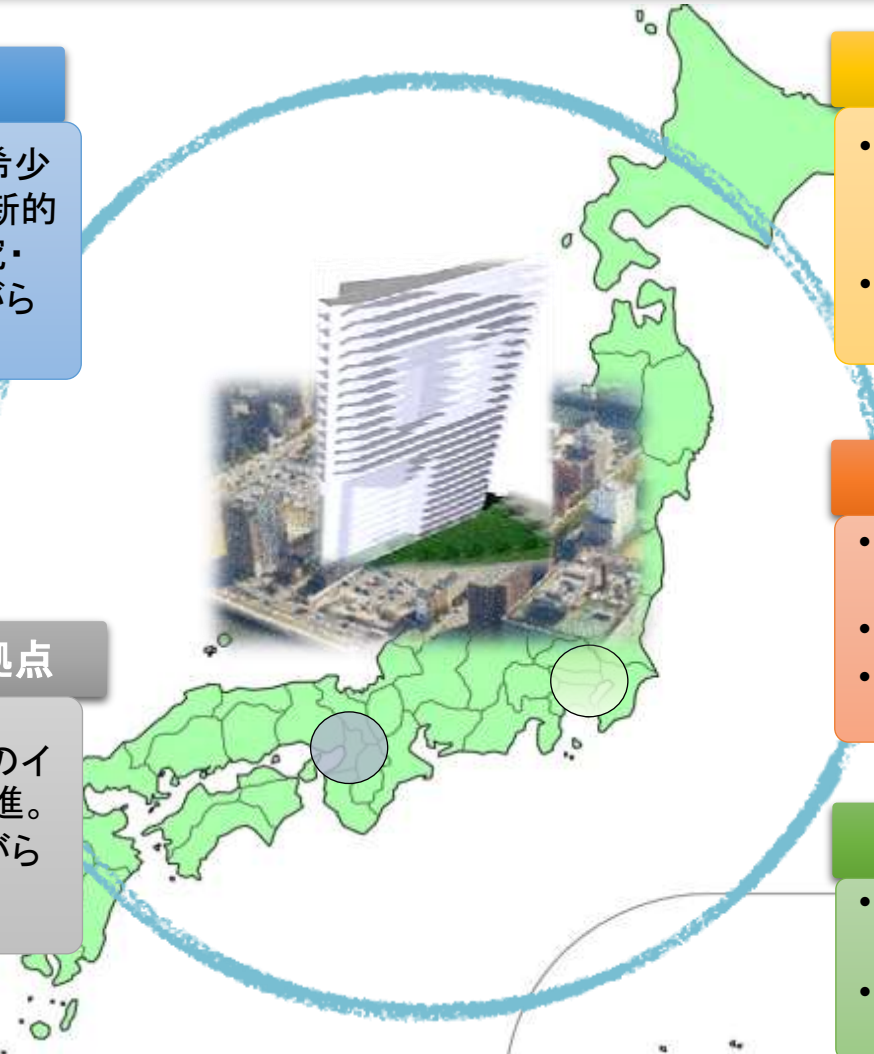
革新的な先端医療の実現において、産学官が一体となって実用化・事業化、国際展開まで推進する仕組みが必要であり、アカデミア等と企業が組織として協働・伴走して先端医療開発を推進する核となる、先端医療国際センターを整備する。

革新的な先端医療の実現

- 再生医療、ゲノム医療、難病・希少疾患治療、遺伝子治療等の革新的な先端医療について、臨床研究・治験専用病床なども活用しながら実践。

海外から人や企業が集まる拠点

- 国際センターとして、先端医療のインバウンド・アウトバウンドを推進。
- 国外の企業からも資金を得ながら研究を支援。



アカデミア発シーズの事業化

- 臨床研究中核病院等のAROと密接に連携しながら、事業化や国際展開をサポート。
- アカデミアと企業とが事業化まで伴走する仕組みを構築。

企業との協働

- 企業からの出資を受け、センターの施設・設備を整備。
- 国家戦略特区制度も活用。
- 企業から人材・資金の提供を受け、事業化を推進。

AMED、PMDA等との連携

- PMDAと連携し先端医療のレギュラトリーサイエンスを実施。
- AMEDと連携し先端医療研究を支援。

先端医療国際センター構想(案)

先端医療の実用化 における課題

- ✓ 再生医療、ゲノム医療、難病・希少疾患治療、遺伝子治療等、従来の医薬品・医療機器の枠にあてはまらない革新的な先端医療は、規制や規格などの未確定要素が大きく、企業の投資判断が困難であるため、企業単独での事業化は極めて困難。
- ✓ 欧米では、市場性が見えない段階では、ベンチャーがリスクをカバーするとともに、そのシステムを企業、社会が支えているが、我が国の周辺環境は十分に整備されていない。
- ✓ アカデミアは研究成果を企業に移転することで役割は終えるのではなく、事業化まで伴走・協働する枠組みが必要。

革新的な先端医療の実現

先端医療国際センター

センターのイメージ

- ✓ 革新的な先端医療の開発を、実用化・事業化、国際展開まで推進。
- ✓ アカデミア、企業の双方から人材・資金の提供を受け、両者が事業化まで伴走・協働して開発する枠組みを構築。
- ✓ 臨床研究・治験専用病床を持ち、国内外の先端医療を実践。
- ✓ 先端医療のインバウンド・アウトバウンドを推進。国外からも資金を得ながら研究を支援。
- ✓ PMDA、AMED、臨床研究中核病院、国家戦略特区と密接に連携。